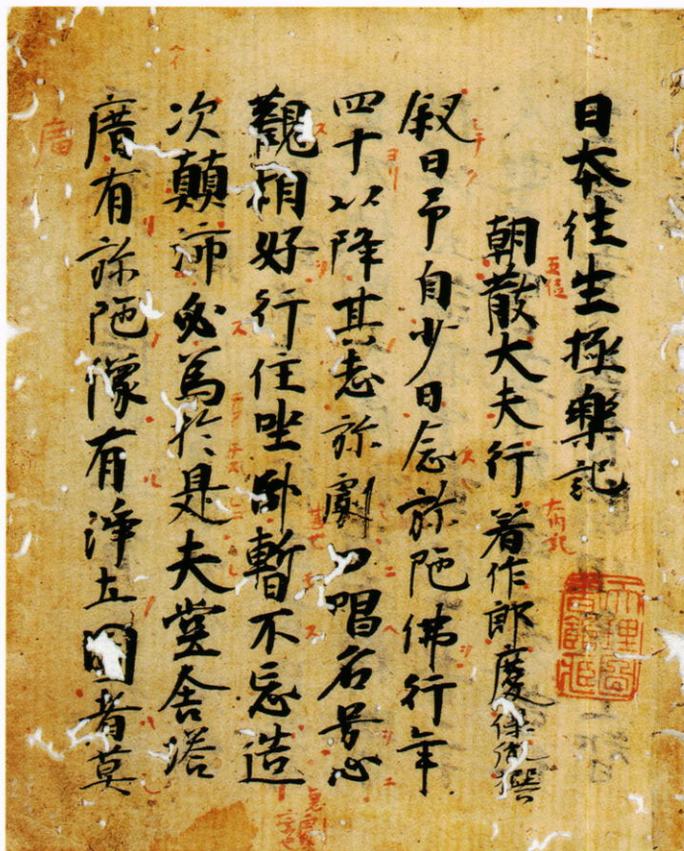


やまとの名品

天理図書館



にほんおうじょうごくらくき  
日本往生極樂記(重要文化財)

慶滋保胤編 仁豪筆  
平安後期写 1冊 粘葉装  
縦18.5cm 横15.5cm

編者の慶滋保胤（？）一〇〇  
二）は当時の文章博士菅原文時  
に師事した当代随一の文人であ  
る。本姓の賀茂を（賀）よし  
茂（しげ）と読み替えて慶滋と  
改称した。

幼少より仏教の浄土教信者に  
て信仰心が深く、康保元年（九  
六四）には念仏結社「勸学会」  
の結成に尽力した。子息の成人  
を見届けると、寛和二年（九八  
六）に出家。深く仏に帰依し、  
比叡山の横川に住み、『往生要  
集』の著者源信（恵心僧都）の  
主催する念仏結社「二十五三昧  
会」の結成に参加した。

本書は平安時代中期に編纂さ  
れた、わが国最初の極楽浄土世

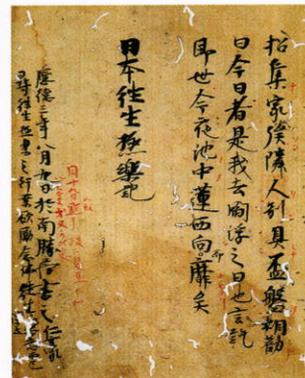
界へ往生した人の例話集、別名  
『日本往生伝』ともいう。保胤  
が出家に前後して編纂したもの  
で、本文中の「行基伝」の後に  
付す注記によれば、具平親王の  
補筆を経た三稿本といわれる。

平安時代中期には仏の教えが  
衰えるという末法思想が広がり  
はじめ、死後は極楽世界に生ま  
れたいとの願いが強く求められ  
た。常と異なる往生の例を、国  
史や諸別伝、古老からの聞き書  
きなどによって、聖徳太子や僧  
尼および俗人男女など四十五人  
の行業を集録している。

これは当時の浄土信仰の様子  
を知る上で貴重な資料である。  
また、以後に続出する同種の

「往生伝」編纂にも多大の影響  
をあたえた。

本書の奥書（右図）には「応  
徳三年（一〇八六）八月九日於  
南勝房書之仁豪」とあり、現存  
の諸本の中で最古の筆写本であ  
る。筆者の仁豪（？）（一一二二）  
は平安時代後期の僧。内大臣藤  
原能長の五男で、第四十二代天  
台座主。



（天理図書館 澤井勇治）